

飛耳長目〈第9回〉開催趣旨

日 時	令和4年11月10日(木) 午後1時30分～
場 所	市役所3階 理事者側控室
テーマ	鈴玲ヶ丘学者村・新屋地域の猿害対策について
参加者	有明鈴玲ヶ丘学者村・新屋地域猿対策 8人

猿被害の状況

- 参加者 安曇野市に移住してきて、自然豊かな空気も水も綺麗なところで幸せに暮らせていて、これからも生活したいと思っていたが、最近猿が来て庭や家の屋根を通り、作物や植え込みを荒らしていくようになった。追い払おうにも怖くて安心して暮らせない。市役所では何年も前から猿害対策をしていて、市民も一緒に活動しているらしいが、私個人はそういうことを知らず、最近特に来るようになり慌てている。一度相談に行かないといけないと思い、話にきた。
- 参加者 散歩してた人が猿に囲まれて、通りがかった車に救助されたりしている。
- 参加者 立ち止まったまま物を投げても「襲ってこない」って認識してしまっているの、何か投げながら近づいていけと言われたが、近づいていこうとすると本当に怖くて女性や子どもにはそんなことはできない。できる人は追い払おうとしているが、全員ができるわけじゃない。
- 参加者 近所ではほとんどの家が猿に入られている。網戸を外されて、開けられて、かごの中の果物を持っていく。
- 参加者 夏場暑くて網戸にしておくところから侵入してくるので、戸も開けられないという人も結構いる。お年寄りには冷房を抑えてしまうところがあるため、特に一人暮らしの方が心配。逃げようと思っても追われたと聞いた。若い人がいれば一緒に対策もできるが、お年寄りしかないことがわかっているんだと思う。
- 市 長 明らかに敵対する人がいるかいないか判断する。罠はかけられないのか。
- 課 長 設置しているがなかなか捕まらない。宮城・牧地区に大きな捕獲檻を設置し、捕獲したが、いなくなった分が外から来るので、恐らく捕獲だけではあまり効果がない。
- 参加者 6～8月ぐらいは毎日のように出没して本当に怖かった。帰宅したら家の周りに10匹ぐらい猿がいて家に入れず、近所に住む男性に助けを求め、音の出る銃で追い払ってもらった。
- 市 長 音を出すと逃げる？
- 参加者 その時は、女性ではだめで男性だったから逃げたのかもしれない。花火もたまにあげることがあるが、一発ぐらい花火をあげても慣れてしまっていてすぐには逃げない。
- 参加者 大きい猿を追いかけたら他の猿に後ろから囲まれ、家の中に逃げ込んだところ窓ガラスを叩いてきた。攻撃性が強くなっている。屋根に登ったりして、チャンスを待つ、あるいは電線を伝って向かってくる。外から網戸を開けて入ってきて食べ物をとって出る前に糞をして出てくる。こういったことがそこら中で起きている。

- 参加者 近所でも2軒網戸を壊され、侵入された。怖くて窓は開けられないし、外にも出られないという感じで困っている人が何人かいる。
- 参加者 私も散歩にも気軽に出不来ない。高齢者の行動が制限されてしまい、フレイルなどにつながってしまう。
- 市長 確かにそうですよね。
- 参加者 ここ2、3年がかぼちゃ、トウモロコシ、玉ねぎ、ネギをやめ、柿の木も切った。作っても食べられてしまうし、柿の木が餌になると聞いたので。ブルーベリーも、完熟しかけは食べられてしまうので青いうちぐらいで採らないといけな。近所の人にはらとかルッコラとか、ハックルベリーってすごく灰汁の強い実とか、猿が食べないものを作っている。おもちゃのドローンで猿を追ったら逃げて行ったと聞いたので一つの手段かもしれない。

市で取り組んでいる対策

- 課長 猿の首にGPSをつけて追跡していて、どこにいるかが大体わかる。これまでの行動経過や習慣を観察でき、「この辺に集中している」「この時期に出て来る」とか、「この辺に出たら来るのではないか」というのは予測できるのではと思っている。スマホからその情報を得られ、パスワードを知っていれば誰でも見れる。群れに残るメス猿につけることで、行動範囲がわかる。ただ、なかなか檻にかからなくてつけられない。現在2頭くらいしかかけられていないので今後もっと増やしていきたい。
- 参加者 これまでは有明山神社周辺で猿の侵入を防いでいた印象があるが、防ぐことができなくなってどんどん下ってきている。私も安曇野市のGPSを付けている猿を一匹追っているが、大体10キロ圏内くらいは移動するので、松川あたりの猿は平気で川を渡って移動している。
- 市長 松川村の追い払いはどんなふうに行っているか。
- 参加者 視察に行ったが、村が区単位か何かで人を集めて、業者を呼んで、追い払う花火の免許を取る機会を作っている。私達も有明で猿追い会を立ち上げ、去年講習受けて花火を取得して使い出した。円筒の中に入れて、火をつけて持っているとき3連発音が鳴る。また火をつけて投げるタイプのものもある。農地などの平地では結構有効だが、山の中は火事の心配があってなかなかできない。安全な場所を確保して使ってください、とあるから民家からも離れないといけな。
- 市長 花火を使う意思があれば、市で購入し用意する。
- 課長 市で今年花火を購入しており、今後は講師を招いて追い払いの知識を学ぶ講習会の開催を考えている。
- 参加者 松川村との境になる橋があるが、そのあたりでは巨大な檻を作って捕獲したり追い払いをしているのがわかる。猿が松川から逃げ込んでいる気がする。
- 参加者 10月末にも松川の方で花火の音がした直後、うちの方に猿の群れが逃げて来たので、やっぱり松川から来ているように思う。
- 課長 花火で松川から追われてやってくるということはあると思う。「松川の方でやったからそろそろ来る、こっちも上げようか」という形でうまく連携して追い払いができれば、猿もどんどん山の方に行くようになると思うが、そこまでの取り組みをするには至っていない。

- 参加者 花火は 2 時間しか効果がないけど、モンキードックは 2 週間効果があった。一週間に一度でもモンキードックをやってくれば猿は来なくなるのではないかな。
- 課長 モンキードックも有効で、追えば山の方には逃げていくが、一頭だけだと追い返すだけでただ散らばってしまうので、複数頭で追うことが必要とも考えられる。また飼い主に「猿が出た」と連絡が行き、追いかけるため少しタイムラグがあり、行った時にはいないこともある。なおモンキードックは個人で飼っている犬を育成するものだが、取り組む方がなかなかいない。育成費用は市の方で出しているが、ここ数年では昨年 1 頭申請があって育成している。
- 参加者 犬が猿にやられてしまった時の傷害保険はあるのか。
- 課長 今のところ事例は無いが、放した時に子どもなどに怪我をさせてしまった場合のものはある。
- 参加者 それよりも猿にやられてしまうことが心配。
- 課長 山の上の方に行くと猿のほうが多いので囲まれてしまうこともあると聞いた。
- 市長 花火にせよ檻にせよ、松川村にどうやっているか聞いてみてほしい。
- 参加者 この間、耕地林務課からお借りした電動ピストルが今までで一番効果があった。土に帰る BB 弾が飛ぶ方式で、球が当たった訳ではないが音だけで散った。大きな音ではないが、当たって痛いということがわかっているからか、猿目掛けて構えると怖がる。前に大きいライフル銃みたいなものを借りたが、結構重くて持って走れなかった。玉に当たったことがある猿はこれを打つだけで来なくなる。しっかりした作りで重さも結構あるから飛距離もある。結構距離があってもこう構えて、打ったら逃げる。女性でもあのくらいなら扱えると思う。
- 課長 電動ピストルはいくつか貸し出ししている。モデルガンを購入した方への補助も出している。
- 市長 とりあえずその銃の貸し出しをやる。いろんなやり方を試してもらったらいいい。また花火を購入する。それから有害鳥獣の専門家による講習会を開催する。それから猿に GPS つけてデータを取って対策を考えることをやる。
- 参加者 それをやってもらうとだいぶ動きがわかると思う。
- 課長 GPS から判明した行動パターンと言った話も含めて講習会でできればいい。

猿害対策への要望

- 参加者 荒れ放題になった別荘地があり、猿が逃げ込んで繁殖していると考えられる。人間がそのような藪の中に入って追いかけることができないということを猿もわかっている。市役所を通じて持ち主に手入れをするよう依頼してもらったことがあるが、対応してくれない人も多い。市役所で別荘を訪ねて住んでいるかどうか確認するとか、手入れをするよう呼び掛けるといったことはできないのか。
- 参加者 山から下りてきて、その日のうちに帰ると思っていたが、そうではなく空き家などの藪の中で一晩過ごしているようだ。
- 市長 私有地に勝手に入って木を切るわけにはいかないし、持ち主が県外にいたり、亡くなって適切な手続きをしていなくて遺産相続者が多数いるといった場合があり、連絡を取るのも一苦労。有害鳥獣の場合はいつでも銃で打てるか。

課長 猿の捕獲の許可は取ってあるので打てるが、基本的に別荘地の中では打てない。

参加者 捕獲や殺処分をしていただいているにも関わらず、猿は増えているが、どう考えているか。最近の子ザルを連れていっているところを年2回も見ることがなくなった。食料が豊富にあるから、子どもを産む機会が増えてるんじゃないかと思う。

課長 山のものだけでなく、里の栄養価の高いものを餌として食べているため、子どもを産む回数も増えていると専門家も言っていた。三郷や堀金の方は電気柵が長く設置されているため少し抑えられているが、隙間から里に出ている。

市長 電気柵を張ってゾーンでは守っている。農業保護として国の補助金を活用するか市単独でやってもいいが、通行人に怪我をさせる危険性が怖い。

参加者 猿の通り道はある程度決まっているのではないかと思うので、まずはそこを穂高有明にある果樹園の敷地は道路沿いに電気柵をしてあって、鼠穴橋近くまで設置されている。強化する場所もかなり限られて電柵を新たに設置する距離も短くすむし、あんまり人は通らない。もし川からくようなら川沿いだけでも効果ありそう。

課長 三郷・堀金の方は電気柵を設置したが、道路の部分はどうしても張れない。今は被害が発生したところに移動式の檻を設置させてもらっているが、なかなか捕まらない。檻で捕獲することの弊害もある。例えば別荘の中のお宅に猿が入ってしまい家主に依頼されて檻を設置し捕獲したが、すぐに回収しに行けないため、1～2日置いておいたところ、周辺に猿が集まってしまって大変なことになったという事例もある。ただやはり里に下りてきて悪さをする猿は捕まえて処理をしていく必要がある。山に帰る猿は追い返せばいいが、居ついてしまう猿は山に戻らない。専門家は「とにかく嫌がることをやればいい」と言っていて、例えばねぐらがあればそこを夜襲うのも効果的と考えられる。

市長 花火は高齢者にとっては危険を感じるし、山の中ではできない。それぞれやれることとやれないことがあるので、一つの方法だけではなく組み合わせて対策できたら。猿専門家の講習会はないか。

課長 1回1万円程度の講師料を支払えば来て講習してくれる。新年度予算に盛り込もうとしている。

市長 実際に皆が花火を使えるかは別にしても、講習会に顔出してもらうのはいい方法。

参加者 多くの住民に聞いてもらうのはいいかもしれない。この人はこれが使える、これが使えないとか、これは危ないとか、使えるものは人それぞれなので。

課長 辰野町をはじめ、広島など全国で追い払いなどの対策されている方がいて、その方に講師を依頼し、要望があったところには何度か出張して講演会を開催している。

市長 その方を講師とした講習会を開いて、地域住民で聞いて知ってもらう必要がある。そうでないと、追い払いの花火の音が嫌だって人もいるかもしれない。

参加者 どうしてそんな大きな音を立てるんだっていう苦情が出ると聞いた。

参加者 たこ平の上あたりは高齢の女性だけが住んでいる家が並んでいる。本日の参加者の中には個人的に追い払いを頑張っている人もいるが、個々ではなく地域全体で追い出すという作戦ができないか、みんなで考える必要がある。そういうときに、地域の誰かが声かけて集まるっていうより、市役所からの声掛けが一番集まりやすく、みんながまとまりやすいと思う。

参加者 そういう対策をすとしても、猿が来たらその場で追い払って山に返して、また次の日来るという繰り返しをしなさいというようなことだったらきりがいいのでは。

市長 そこに来ると嫌な目に合うということを猿に覚えさせていくということが重要ではないか。

参加者 そのとおりだからこそ、方策を考えて真剣にやっついていかないと、一日の効果で終わってしまうようなことの繰り返しでは解決にならないのではないか。

課長 単発だけでは一旦どこかへ行ってしまっただけなので、追い払いも1回追い払ったらどんどん押してかないといけない。

参加者 猿の群れを見かけてすぐ通報しようとしても、来ていただく頃にはいなくなる。かなりのスピード感でやらないと駄目。また常日頃猿が出没するところで猿を目撃しても防犯メールは流さないということだが、近所の人に一齐に通知が行けば、近所の人全員で追い払いをするといったこともできるんじゃないかと思う。

参加者 以前実施していただいたが、猿の追い払いや対策を呼び掛ける注意喚起チラシを配っていただけると非常に助かる。全戸に情報を徹底することをやっていただきたいという希望出したところでやっていただいた。

市長 有明周辺は区未加入者も多く、正直回覧板の効果があまりない。

参加者 防災ラジオで猿の出没情報を流すことは難しいか。今防災ラジオ付けているところが結構あるので気を付けるきっかけになる。

市長 地域限定で流せばいいが。

参加者 例えば有明地域限定とか、そういうことを試みとして検討していただきたい。

市長 検討する。

参加者 以前熊がうちの周りにいて市役所に通報したが、行政のリアクションが全然なく疑問に思っていた。後日聞いたら、17時以降暗くなってから見に来たそうだが、足跡などがちゃんと確認できる時間に来ていただきたい。

市長 今日いくつかでた案、講習会等含めて取り組み、モデルガンも増やしたい。通報も考える必要がある。今日はありがとうございました。